



渡辺 光先生略譜

- | | |
|-------------|------------------------------------|
| 1904年 9月 2日 | 東京市に生る |
| 1958年 8月 | お茶の水女子大学教授 |
| 1965年10月 | お茶の水女子大学文教育学部長（1967年 9月まで） |
| 1966年 4月 | お茶の水女子大学大学院人文科学研究科長（1967年
9月まで） |
| 1970年 3月 | お茶の水女子大学を定年退官 |
| 1970年 | 日本地理学会会長（1972年 3月まで） |
| 1973年 | 日本国際地図学会会長（1981年 3月まで） |
| 1984年 4月29日 | 心不全のため逝去 |

渡辺 光先生を偲んで

お茶の水女子大学地理学教室を愛された渡辺光（あきら）先生は、お茶の水地理学会にとっても、忘れることのできない大切な方である。先生は1984年4月29日午後9時過ぎ、御自宅近くの漆原病院で、心不全のため79才のお年で亡くなられた。その前の年の1月22日、お仕事の帰りみち、脳梗塞の発作で路上に倒れ目白病院に入院されたが、のち松戸の漆原病院へ移られた。御家族や病院関係者の献身的看護の甲斐もあって、一時はことばや体を動かすリハビリをなさるほどであったが、まことに残念なことに、1年3か月の療養ののち、天命により不帰の客となられたのである。

渡辺先生がお茶大にこられたのは、1958年8月のことであった。日大へ移られた飯本信之先生の後任教授として、1970年3月に定年退官されるまでの12年近くをお茶大教授として送られた。もっとも、56年10月から58年3月まで非常勤講師をされていたので、これを加えれば13年余りとなる。その間、65年10月から67年9月までは文教育学部長の要職にもつかれ、大学行政に参加された。

先生は1904年のお生まれであった。いや、明治37年といった方がよいかも知れない。東京麹町生まれであるが、小学校時代の一時期を渡辺家の郷里の静岡で過ごされたためか、静岡県人ともよくいわれていた。旧制開成中学、旧制第二高等学校、旧制東京帝国大学と進まれ、1928年3月、東大を卒業、そしてすぐ地理学教室副手となられたが、29年10月から1年半、アメリカのミンガン大学地理学教室に留学され、高名なロバート・ホール教授の御指導を得ただけでなく、もともとおできになった英語にも磨きをかけられた。格調の高い先生の英語は、この留学に大きく依存している。1933年からは陸軍予科士官学校教授、そして翌年、御結婚。その後、大陸に何度か調査のため渡られ、戦時中は文部省に勤められた。

戦争が終ってからの先生のお仕事は、1946年からの地理調査所（現在の国土地理院）に始まった。そこでの12年余り、先生は日本の地図づくりの近代化に精力を使われ、多くの地理学者を集めて、地図学・地理学の向上のために尽された。同時に、日本地理学会の評議員・常任委員長などにもなられ、忙しい毎日を送られた。国際会議にも何度も出席されただけでなく、53年には東大から理学博士の称号を贈られた。

お茶大にこられてからのちの渡辺先生の御活躍は、さらに多方面にわたった。日本学術会議会員も長らくされた。学問の上では、地形学・地図学はもとより、地誌学・人文地理学・地理学方法論と、地理学のあらゆる分野に強い関心をもたれた。地理が大好きで、地理ほど面白い学問はないといつもいわれていた。先生は、そのすばらしい学識を教育に研究につき込まれ、学生に深い感銘を与えた。地理ということばは古代中国で生まれたもので、「土地の論理（logic）」である。英語の geography は古代ギリシャで生まれ、「土地を記述する」ものである。日本の地理学は、この両方の意味を合わせもつことになったので、正に最高の学問である。このようなことを教わった卒業生諸君も多いことと思う。ことばに多少の飛躍があったとしても、先生の地理を愛する心は十分に伝わったはずである。

先生の国の内外での活躍は、お茶大を去られてからも続く。日本地理学会会長、日本国際地図学会会長、第10回国際地図学会議組織委員長もされた。国際地理学会議、国際地図学会議へも精勤され、また太平洋学術会議の常連でもあった。地域開発コンサルタント顧問、環境情報科学センター常務理事、地図情報センター理事長というお仕事もよろこんでこなされた。そのお忙しい体でも、お茶の水地理学会の集会にはいつものように出席され、新しい知識を吸収されただけでなく、御自身の見解も述べられた。エピソードの多い、正に超人的な先生であった。

ここに先生の生前の御遺徳を偲んで、心を新たにするとともに、先生の御霊が永遠に私たちの道を灯し続けてくださいますよう、謹しんでお祈りいたします。

1985年1月27日

正井 泰夫